



G7倉敷教育大臣会合の結果概要 (2016年5月13-15日)



MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



G7 2016
ISE-SHIMA SUMMIT
G7倉敷教育大臣会合

各国代表一覧

| | | | | | |
|------|--|---|--------|---|--|
| カナダ |   | メアリーアン・ミハイチャック 雇用・労働力開発・労働大臣 リズ・サンダルス オンタリオ州教育大臣 | 米国 |  | マウリーン・マクローリン 教育長官上級顧問 兼 国際問題担当部長 |
| フランス |  | ナジャット・ヴァロ＝ベルカセム 国民教育・高等教育・ 研究大臣 | EU |  | ティボル・ナヴラチチ 欧州委員 (教育・文化・青少年・ スポーツ担当) |
| ドイツ |  | ペーター・オルトマンズ 各州文部大臣会議事務局 質保証・国際及び欧州関係・ 統計担当局長 | OECD |  | ガブリエラ・ラモス 事務総長首席補佐官 |
| イタリア |  | ステファニア・ジャンニーニ 教育・大学・研究大臣 | UNESCO |  | イリナ・ゲオルギエバ・ボコバ 事務局長 |
| 英国 |  | ニッキー・モーガン 教育大臣 兼 女性・平等担当大臣 | 日本 |  | 馳 浩 文部科学大臣 |

G7教育大臣会合①

- 今、世界が置かれている経済的・社会的な状況、今の子供たちが今後置かれることになる新しい時代を見据え、①「教育の新しい役割」、②「その役割を果たすための具体的な教えや学びの向上・改善策」、③「新たな国際協働の在り方」について、各セッションに分けて議論。
- 冒頭、各国より熊本地震に対するお見舞いの言葉が述べられた。そして、10年ぶりの主要国での教育大臣会合を日本が再開したことへの謝意が各国から伝えられ、継続に賛同する多数の声に対し、次の議長国イタリアより、来年の教育大臣会合開催が表明された。
- 会合最後に、成果文書として「倉敷宣言」を採択。



G7教育大臣会合②【倉敷宣言(骨子)】

I. 教育の果たすべき新たな役割

教育の果たすべき新たな役割として、①「社会的包摂」、「共通価値の尊重」の促進、②新しい時代に求められる資質・能力の育成、③新たな役割を果たすための国際協働の更なる推進で一致。

(1)「社会的包摂」、「共通価値の尊重」の促進

- 貧困、若者の失業、難民・移民、暴力的な過激化・急進化等、世界が抱える課題への対応として、教育の力を通じた「社会的包摂」、「共通価値の尊重」の促進に教育が大きな貢献を果たしていく必要性を表明。
- 誰ひとり排除せず、すべての人が最大限の可能性を発揮できるよう、社会を生き抜いていくために必要な力を培うとともに、社会形成や地方創生に積極的に貢献し、生きがいを感じることができるとともに社会への変革を教育が支えていくことを認識。
- 特に、人間の尊厳を損なうあらゆる暴力、差別を阻止し、共生社会を実現するため、共通価値(生命の尊重、自由、寛容、民主主義、多元的共存、人権の尊重等)に基づいて、教育を通じたシチズンシップの育成を約束。教育によって文化間の対話、相互理解の促進、道徳心の醸成の必要性を強調。

(2)新しい時代に求められる資質・能力の育成

- 新たな時代に求められる資質・能力として、自ら新たな問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくための力の育成を強調。
- 教育実践の基盤として、①何を知っているか、②知っていることをどう使うか、③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか、という視点を持つことの重要性を強調。

(3)教育の新たな役割を果たすための国際協働の推進

- 様々なレベルでの教育分野における国際協働を促進する重要性を強調。国際協働により、異なる考え方や価値観に対する寛容な精神など、多文化共生社会の構築に向けた極めて重要かつ幅広い能力を育むことができることを再確認。各国の教育実践を改善すべく、G7各国内の互いの学び合いを促進。

教育を受けることは人間の基本的人権であり、世界の平和と繁栄、持続可能な社会の構築のために不可欠な要素であるという認識のもと、国際協働のより強力な推進を強調。

教育を世界、各国の優先的アジェンダへ引き上げることの必要性、仁川宣言に即した教育への公共支出の重要性を確認。

II. 教えや学びの改善・向上策

- **教育における多様性の尊重**: 困難な状況にいる子供がさらされている排他や疎外、格差や不平等の解消。個別性や多様性が尊重され、すべての子供等が自らの可能性や長所を最大限活かすことができるような教育環境の実現。
- **女兒・女性のエンパワーメントの促進**: 女性の生涯にわたる教育・職業教育を含めた能力開発の機会の提供・充実。特に教育を通じた理工系(STEM)分野をはじめとする女性の活躍分野の拡大。
- **教育と雇用・社会の接続**: 労働市場が求める資質能力と教育・訓練で育成する資質能力のギャップ解消。汎用的なスキルの習得、キャリア教育・職業教育の促進。教育は社会に開かれたものであり、次世代を担う子供は地域・社会全体で育てていくとの認識を共有する重要性。
- **技術革新に対応した教育**: 情報活用能力の育成を促進。教員のICTスキル向上の重要性。不利な状況に置かれている学習者へのICTの利活用の奨励。情報の質や情報源を見分けるために必要なメディアや情報に関する能力育成を促進。
- **教職の向上と支援**: 資質能力向上のための職能開発。教師の社会的地位や待遇の向上に向けた取組推進。教員自身の異なる文化の人々と協働することができる力やグローバル化に対応した能力の重要性。異文化・異宗教、異なる言語的背景を持つ児童生徒をグローバルな視点から教育できる教員をG7各国が協働して育成。効果的かつ十分な教員配置の重要性を確認。
- **客観的根拠に基づく教育政策の推進**: 各国間の取組・課題等の共有や行政官・研究者交流の促進に向け、教育効果に関するG7間の情報共有等を促進。

III. 新たな国際協働

- **教育の国際化**: 異なる地域の高等教育圏が開放的で相互に関わりを持つものになるよう努力し、若者の学び合いを促進。初等中等教育段階からの留学に向けた意識付け、国際交流を促進等。
- **持続可能な開発目標(SDGs)**: 実現加速に向けた取組の推進。開発途上国のキャパシティ・ビルディングを支援する国際教育協力の強化。特に、女性・女兒の効果的な学習環境の必要性を認識。

その他

イタリア議長による**来年のG7教育大臣会合の開催を歓迎**。

別添として、宣言の具体的な実行に向けた「**G7教育大臣の行動指針**」を策定

G7教育大臣会合④【共同記者会見】



■ 議長より、会合の内容、「倉敷宣言」の概要について説明。

■ 本会合の意義として、議長より以下3点表明。

- ① 今後の教育の在り方という極めて大きなテーマに正面から取り組み、各国の教育を取り巻く事情はそれぞれではあるが、教育の根幹となる理念の共有がG7として初めて得られた。
- ② このような教育の理念を実現する上で、日本型の教育システムや現在進行中の日本の教育改革が世界に貢献できることを確信するとともに、各国の教育施策に見習うべきことも多いことを実感し、教育の分野で国際的な連帯が重要だと再認識できた。
- ③ また、主要国の枠組での教育大臣会合は10年ぶりだが、今回の会合をG7での教育協力の再スタートの場にしたい、そしてこの協力関係を継続的なものにしていきたいとの思いがあった中、次の議長国のイタリア・ジャンニーニ大臣が来年の教育大臣会合の開催を表明いただいた。本当に意義深く、嬉しく思う。改めてジャンニーニ大臣の御判断に敬意を表する。

関連行事① 【公開シンポジウム】



基調講演:カイルシュ・サティヤルティ氏
(2014年ノーベル平和賞受賞)



- 「Power of Education ～教育の力で未来をつなぐ～」をテーマに、公開シンポジウムを開催。インドの**カイルシュ・サティヤルティ氏(2014年にノーベル平和賞受賞)**が世界中すべての子供たちへの教育の必要性をテーマに基調講演。
- 馳大臣と各国代表、専門家が、**移民・難民問題、貧困など様々な背景をもつ子供たちに配慮し、違いを尊重をした教育のあり方についてパネルディスカッション**。教育は未来を作る大切な投資との考えや、それぞれの状況に応じた教育の必要性などについて闊達な意見交換が行われた。
- また、留学経験のある学生や地元の高校生との質疑応答など、各国代表と会場参加者とが意見を交わした。

関連行事② 【各国バイ会談】

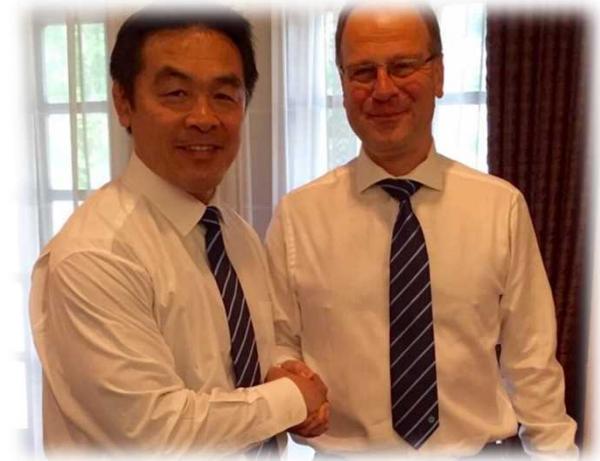
- 馳大臣は、フランス、英国、イタリア、EU、UNESCOと、義家副大臣は、米国、ドイツ、カナダとバイ会談を行い、G7各国及び国際機関と関係強化を図った。
- イタリアとのバイ会談においては、教育・科学技術分野における協力に関する覚書の署名式も行った。



フランス、ベルカセム大臣と



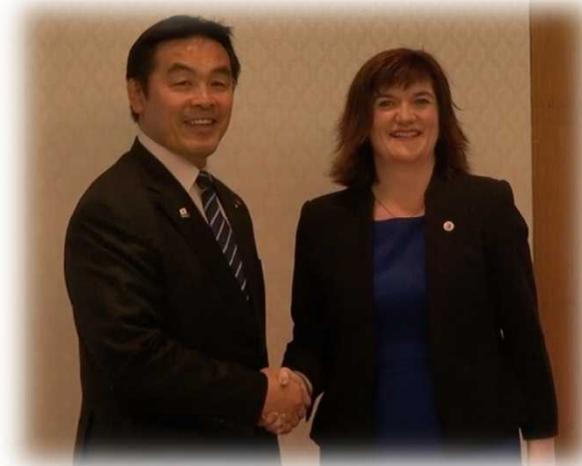
イタリア、ジャンニーニ大臣と



EU、ナヴラチチ欧州委員と



米国、マクローリン上席顧問、ケネディ大使と



英国、モーガン大臣と



UNESCO、ボコバ事務局長と

関連行事③ 【倉敷市内小・中学校視察】

- 大臣会合に先立ち、市内の小中学校視察が行われた。義家副大臣が、各国代表やケネディ米国駐日大使とともに参加。
- **老松小学校**では教室で児童と一緒に給食を体験し、掃除風景や地域の方が教える昔遊びの授業などを見学。海外では掃除は子どもたちではなく業者が行うところが少なくないため、熱心に掃除に取り組む児童たちに感銘を受ける姿が多く見られた。
- **西中学校**では英語や書道の授業の他、日本の伝統武道として剣道の部活動を見学。

市内で最も新しい校舎<老松小学校>



築79年の木造校舎<西中学校>



ケネディ駐日大使と給食



関連行事④ 【歓迎レセプション、倉敷美観地区散策】

伊東香織倉敷市長の案内で、**美観地区散策**。
江戸時代からの古い建物、倉敷川河畔の柳に
彩られた景色などを楽しむ各国代表。



地元実行委員会主催の**歓迎レセプション**。
瀬戸内海の魚介類、果物王国を象徴するフルーツなど、岡山県特産の食材がふるまわれた。
地元**倉敷名産のデニムの法被**を着て鏡割り。

関連行事⑤ 【大原美術館見学、公式夕食会】

各国代表は、日本で最初の西洋近代美術館である**大原美術館**を観覧した。また、同美術館内ではカクテルも催された。



公式夕食会では、各国代表は寿司を、その他の参加者は大原美術館内でのディナーを楽しんだ。



関連行事⑥ 【エクスカーショーン】

全てのプログラムが終了した最終日の午後に、エクスカーショーンとして、一部の各国代表は岡山市の**後楽園**を訪れ、神楽見物や茶摘み体験等を楽しんだ。

